

能登地区の海洋資源を生かした海洋教育推進プログラム



実施担当者 能登町立柳田中学校
教頭 焼塩 伸輔

1 はじめに

本プログラムは、能登の海という身近で豊かな自然環境を学びの中心に据え、児童生徒が自らのふるさとに目を向けながら科学への興味・関心を高めるとともに、論理的思考力や創造性を育むことを目的として実施したものである。あわせて、地域の自然や人々の営みを多面的に捉える学習を通して、持続可能な社会の担い手としての態度を養うこともねらいとしている。

本年度は助成を受け、町内8つの小中学校がそれぞれの実情や発達段階に応じた海洋体験活動を展開した。中心校である柳田中学校においては、これまで継続してきた海洋体験活動に加え、能登町の魅力を発信する取り組みや、県内都市部における港湾施設の見学、さらに能登半島地震や豪雨災害による環境の変化とそこに生きる人々の思いに触れる学習を行った。こうした多角的な学びにより、生徒は海をめぐる資源や課題をより広い視点で捉えることができるようになった。

これらの取り組みを通して得られた気づきや課題を、次年度におけるより深い探究活動へとつなげていく。

2 活動内容

2-1 能登町の連携校における体験等の活動

本事業では、能登の海を中心としたふるさと教育を推進し、児童生徒の科学的関心を高めるとともに、論理的思考力や創造性の育成、さらには持続可能な社会の担い手としての態度を養うことを目的として、能登町内小中学校7校で多様な海洋教育活動を展開した。

各校では、地域の自然や人材を生かした体験的な学習を重視し、発達段階に応じた取り組みが行われた。

宇出津小学校では、海洋深層水施設の見学や海岸清掃、釣り体験、いかだ体験など、実際に海と関わる活動を通して、自然の恵みや協働の大切さを学ぶ機会となった。特に、海洋深層水の活用や塩づくりの見学では、身近な生活と海とのつながりを実感する姿が見られた。また、海岸清掃では「自分たちの海を守る」という意識が芽生え、主体的な行動につながっている。



海洋深層水施設見学



海岸清掃



いかだづくり



釣り体験

小木小学校では、「小木の海を守ろう」をテーマに、漁業に携わる人との関わり、海洋ごみや海藻の生育、食との関わりなど多角的な学習が行われた。海洋ごみが陸から流れ込む仕組みを学んだことで、問題を自分事として捉える姿勢が育まれた。また、里海給食の献立づくりでは、栄養などの現実的な視点も取り入れながら、協働して課題解決に取り組む様子が見られた。



海藻の生育



海洋ごみ



献立づくり

松波小学校では、海洋深層水の学習や生き物観察、釣り体験などを通して、能登の海の多様性と豊かさを体感した。実際に生き物に触れる体験は、教室での学習を深める契機となり、海の環境を守る意識の醸成につながった。地震の影響による環境の変化にも目を向け、地域の現状を踏まえて考える姿勢が見られたことも大きな成果である。



海洋深層水施設見学



生き物観察と海岸清掃



柳田小学校では、川から海へとつながる環境に着目した学習が展開された。水生生物の調査や飼育、海岸清掃、海ごみアートの制作などを通して、環境問題を多面的に捉える力が育まれた。特に、調査結果をまとめ発信する活動では、自らの学びを他者に伝える力が高まり、学習への意欲の向上にもつながった。また、希少な生物の発見や外部での発表経験は、地域の魅力を再確認する機会となった。



水生生物調査



海ごみアートの制作



鵜川小学校では、地域の海の魅力発信や環境保全をテーマに、看板作りやヒラメの栽培漁業体験、海からの地域観察などが行われた。自分たちの住む地域を別の視点から捉える活動を通して、新たな気づきが生まれた。また、郷土料理づくりや発表活動では、地域文化と海とのつながりを実感し、学びを地域へ還元する姿勢が見られた。



児童が考えた看板



ヒラメの放流



いかめしづくり

能都中学校では、発達段階に応じてより専門的・探究的な学習が行われた。金沢大学や研究機関と連携した学習では、海洋資源や研究手法に触れることで、学問的な視点から海を捉える機会となった。さらに、海と生活の関わりや持続可能な利用について考える中で、自らの将来や社会との関係を意識するようになった。



金沢大学



のと海洋ふれあいセンター



のと里山里海研究所

松波中学校では、体験を基盤とした学びをもとに、発信活動へとつなげる取り組みが特徴的であった。海洋体験や清掃活動を通して得た気づきを、PR 動画や商品開発として表現することで、学びがより主体的で実践的なものとなった。特に、ふりかけの開発は、地域資源の活用と人とのつながりを実感する貴重な経験となった。



ふりかけの試作



海岸清掃



塩づくり

2-2 大学教授を招聘しての講演会等

小学生を対象とした9月8日の海洋教室では、東海大学の坂井泉教授を招き、小木小学校および柳田小学校を会場に実施した。深海調査船「しんかい6500」の潜水の様子を映像で観察しながら、普段目にすることのない深海の環境や生物について理解を深めた。また、海底資源に関する話を通して、海が持つ多様な価値について学ぶ機会となった。特に、水圧の変化や水深による光の届き方の違いが魚の体色に影響するという説明では、簡単な実験や視覚的な資料を用いて理解を促し、児童は驚きとともに科学的な現象を実感していた。身近な海と未知の深海とがつながっていることに気づくことで、学びへの意欲が一層高まった様子が見られた。

中学生を対象とした12月9日の講演では、能都中学校および柳田中学校を会場に、東京大学の原田尚美教授を招き、南極観測に関する話を聞く機会を得た。南極という極限環境における調査の様子や、観測データが地球環境の理解にどのように役立っているかについて具体的に語られ、生徒たちは熱心に耳を傾けていた。特に、海洋と気候変動の関係や、長期的な観測の重要性についての説明は、日常生活と地球規模の問題とを結び付けて考える契機となった。また、研究に取り組む姿勢や現地での経験談は、生徒にとって将来の進路や学び方を考える上でも大きな刺激となった。



東海大学海洋教室

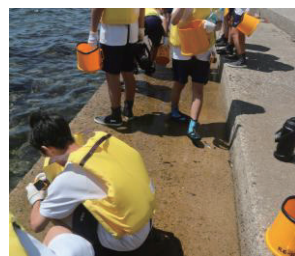


東京大学海洋
アライアンス

2-3 柳田中学校の取組

本プログラムの中心校となる柳田中学校では、各学年の発達段階に応じて、体験を重視した海洋学習に取り組んだ。

1年生は、事前に能登町の海について調べ、自分たちで疑問をもったことをもとに、のと海洋ふれあいセンターでの学習に臨んだ。施設では職員の方に直接質問を行い、地震後の海の変化や生物への影響について理解を深めることができた。実際に九十九湾で行った磯観察では、水中カメラやゴーグルを使って生物を探し、教室では得られない実感を伴った学びとなった。海のおいしさや水の冷たさ、生き物の動きなどを体で感じた経験は印象深く、その後の振り返りにも具体的に表れていた。また、地震による海岸の変化を見学し、地域の方の話を聞く中で、これからの海との関わり方について考えるきっかけとなった。



磯観察 (1年)

2年生は、シュノーケリングや釣り体験を通して、より主体的に海とのかかわる学習を行った。初めて海に入る生徒も多く、最初は戸惑う様子も見られたが、実際に海中で魚の群れや多様な生き物を目にすることで、次第に興味や関心が高まっていった。釣り体験では、餌の扱いに苦労しながらも、自分の手で魚を釣り上げた喜びを味わい、自然の恵みを実感することができた。普段海に接する機会の少ない地域に暮らす生徒にとって、これらの体験は海を身近に感じる貴重な機会となった。

3年生は、体験だけでなく、調査や発信に重点を置いた学習に取り組んだ。能登町の魅力を見つめ直し、それをどのように伝えるかという視点から、外部の人々の意識を調べる活動を行った。修学旅行では東京のアンテナショップで実際にアンケート等の調査を行い、地元では気づきにくい価値に触れることができた。また、専門家の講話を通して、里山と里海が一体となって能登の環境を支えていることを理解し、持続可能な地域づくりについて考えを深めた。

この他にも、地震や豪雨によって大きく変化した地形の変化や、町外にある大きなクルーズターミナルの見学を行ってきた。



シュノーケリング (2年)



海岸の調査 (3年)



クルーズターミナル



アンテナショップ

3 まとめ

海洋教育の取り組みを通して、児童生徒は海に「触れる」「知る」だけでなく、「考え」「行動する」姿へと変容してきている。海洋ごみや環境保全といった課題に対して、自分たちにできることを見出そうとする姿勢が各校で見られ、ふるさとへの愛着や誇りも着実に育まれている。

一方で、活動の継続性や学校間の連携、学びの体系化といった課題も見えてきた。今後は、これらの成果を共有しながら、より発展的な学習へとつなげていく必要がある。

本年度の実践により、能登の海を核とした海洋教育が、児童生徒の主体的な学びと地域理解の深化に大きく寄与することが明らかとなった。次年度以降も、地域と連携しながら、持続可能な社会の担い手を育成する教育活動をさらに充実させていきたい。

謝辞

海洋教育推進プログラムに対しご助成を賜り、心より感謝申し上げます。地震や豪雨災害の影響により交通手段の確保が困難となり、さらに海洋施設等の復旧が続く中、従来の活動が制限される状況にありましたが、ご支援のおかげで各学校において多様な海洋学習の機会を確保することができました。児童生徒の学びを支えていただきましたことに、深く御礼申し上げます。